歴史II

環大西洋の歴史⑪

12月13日：ネットワークの変容

海賊がはやらなくなった大西洋はどのように経済が形成されていったのか。スペインやポルトガルの銀くお積んだ船を奪おうというフフに考えるのが基本的には海賊、国家の許可を持った船であった。それが段々ダメになってくる。違うやり方の登場。それが下のやつ。

復習:プランテーション革命

- 貴金属略奪から商品の生産と輸出へ
 - 砂糖、タバコ、コーヒー、カカオetc
 - ヨーロッパの嗜好品革命
- 商品作物生産向けの農場(プランテーション)
 - →奴隷労働力の大量導入

ヨーロッパに売れる商品を生産して、それを売ってその利潤でカリブ海の経済を回していこうというもの。海賊に参加して、その後さらに太平洋に行って、世界一週した人としてダンディアという人がいる。彼の本に、海賊をやっていたくせに、あいつらはもうダメだ、働いてものを作って売らなきゃ幸せになれないと書いてあった。彼も海賊業をした後は、カリブ海沿岸の木を切って煮ると染料が出てくるのでそれを売っていた。

1700年前後からそのようにしてもの売っていくことで経済を動かそうとする発想に変わっていった。その影響によってはやったのが砂糖とか。朝食がパンになってバターを塗る。それだけでは足りないということでコーふーや紅茶を飲むようになり、苦いので砂糖を大量に消費するようになる。そこで砂糖の大量生産が始まったりするわけだ。

こういったものはヨーロッパでは生産できないものであったので、砂糖などは新大陸で性sなんしてけいざいを動かそうとした。

プランテーションというのは、商品作物生産の農場である。計画的に生産することが必要になるので、大量の労働力を一気に導入したりして色々大変。なので最初の頃は、年季奉公人ということでヨーロッパの下層階級の人を雇っていた。しかし彼らは不満を溜めやすい。なので、どうもうまいかないということでアフリカから労働力を連れてこようということになった。言葉ができない人たちが集められたのでなかなか集団行動ができなかった。こういうことで奴隷貿易が大きく大量に導入されていった。こういう奴隷達はサトウキビを絞って煮詰めて乾燥させてできた砂糖をヨーロッパに持っていくわけだ。

もっと砂糖を利用採用ということから砂糖からできる糖蜜を使ってお酒を造ろうということが起こる。

ラム酒ブーム

ラム酒ブーム

ラム酒とは？

サトウキビ→糖蜜→発酵／蒸留

消費者：船員、海賊

北米でブーム：年間1人あたり1

→醸造工場の設立

植民地間貿易の発達

カリブ海→糖蜜→北米

←食糧←

糖蜜のどろどろしているものを乾燥させると結晶ができるのだが、結晶ができなかった部分でシロップができる。これを発酵させるとアルコール化する。それをさらに発効してアルコール度の高いお酒ができる。これがラム酒。

消費者は船員や海賊であった。飲んで力が出るということがあるので、そうすると、例えば荒らしの時には飲んで力を出して帆をたたんだりといったことをやった。飲み比べももちろんやったと思われる。なので往復する船乗りにもラム酒を売ることができる。儲けの道がこれで見つかった。そのうちにこれは北アメリカのあたりでブームになる。お酒はちょっと高いもの。ワインを輸入して飲むということには手の届かない人はラム酒を購入して飲むという習慣が広がった。年間13.5リットル消費していた。各地域毎にラム酒も色々ある。

北米でブームが続くと自分たちで作ろうということが起こる。カリブ海でできた糖蜜を輸入して生産しようとするものが出現する。これをまたカリブ海で売ったりヨーロッパの港で売ったりすることが起こる。すると、植民地同士での貿易が活発になるという現象が起きる。カリブ海からサトウキビを輸入してラム酒を生産し、カリブ海に輸出したり、ヨーロッパに持っていったりして、貿易が盛んになる。食料とかがカリブ海の方にいくようになる。

タバコ生産の拡大

先住民が宗教儀礼や接客で利用

→薬品としてヨーロッパへ

17世紀：居酒屋、サロン、港町での消費

パイプ、嗅ぎタバコなど

女性の消費

→生産の拡大

カリブ海→北米、ブラジル、キューバ

特徴：高関税と密輸

もう一つ貿易に関わってくるのはたばこね。たばこは元々先住民の宗教儀礼で使っていたものであった。そこにヨーロッパ人がやってきて、はじめはこれを薬品として輸入した。気付け薬とかに使っていた。やがて17世紀になるとヨーロッパのあちこちの場所、北米のあちこちの場所でたばこの消費が広がった。サロンや伊座が港町ね。パイプや嗅ぎたばこなど色々あるね。

女性の消費も結構あった。キセルにたばこを吹かすとおしゃれみたいな感覚が広がりそういう女性が出てきた。そういうことで、17世紀ぐらいになると生産が拡大するようになる。最初はカリブ海のあたりで作っていたのだが、せいさんちが北アメリカの方、特に南部の方に

多くなる。ブラジルの方にも生産が広がる。キューバは今でもたばこの大生産地である。たばこの特徴は税金をかけやすいということである。なので税金を込めて販売するようになっていた。日本でも専売公社があったようにね。すると安いたばこがほしいということで密輸がはびこった。

北米植民地の成長

ふたつのはじまり：17世紀初頭～

ヴァージニア植民地

王室が推進、会社による経営、タバコ栽培

18世紀に急激に人口増

プリマス植民地

ピューリタン (Pilgrim's Fathers)

→ 1730年代に統合

cf.先住民の排除

このようにして、あちこちにプランテーションとある種の商品生産を基盤にした経済が広がった。何で今まで北米の話が出てこなかったかという、大西洋経済では大きな役割はなかったからね。しかし17世紀になって、たばこやラム酒などの生産から重要度が高まってくる。1600年くらいから入植しようとする人々が出てくる。一つはヴァージニア植民地。最初は餓死しかかっていたが、インディアンにたばこ栽培などを教わりながら助けられていた。しかし、段々植民地に入植する人が増えてくると邪魔になってくる。だって土地を奪ってたばこを植えようとしてるしね。インディアンを追い出して土地を確保してたばこ農場を作ったりする人が出てくる。すると両者の仲が悪くなる。なのでインディアン対白人という図式が明らかになる。

この中でヴァージニアの人はたばこを植えて輸出し、役割が大きくなる。すると労働力が必要になる。年季奉公人が始め用いられたが、やはり反乱があり、どれに貿易が盛んになる。プリマス植民地にはピューリタンがニューイングランドを形成した。

中間地域にはオランダ領があったのだが、1650年代から併合してゆくということになる。というもの大して人がいなかった。ニューイングランドは宗教的な統治をしていたり、してもう嫌だといって出て行った人がオランダ領の方にはいていたりして、気がつくといギリスに併合されている感じになってしまい。70年代にはイギリスの領土として認められた。

大西洋の中で大きな地位を示すようになる。

スペインの植民地との違いは、先住民を排除したかということである。スペインは先住民を取り込んで税金を払わせたりして懐柔していた。しかし、イギリス人は排除して土地だけを奪おうとしていたので先住民との間に大きな対立関係が生まれた。

英仏領植民地の成長

英領カリブ(1670-1770):96,000-480,000

英領アメリカ(1670-1770):112,000-2,148,000

仏領カリブ

サンドマング

1713 : 10,000 1750s : 172,000 1789 : 513,000

本国を上回る成長

→消費地としても重要に

英仏領植民地の成長

英領カリブ(1670-1770):96,000-480,000

英領アメリカ(1670-1770):112,000-2,148,000

仏領カリブ

サンドマング

1713 : 10,000 1750s : 172,000 1789 : 513,000

本国を上回る成長

→消費地としても重要に

このようにして段々と他の国の植民地が成立してくる。この時期に明らかに急成長した。上のようにね。カリブの島はサトウキビ畑で埋め尽くされている。本国よりもずっと速いペースで成長していった。なので消費地としても重要になっていった。

新大陸というのは17世紀から大きく変わってきた。最初はスペイン人しかいなくて銀を輸出することしかなかったのだが、他の国の植民地が増え、サトウキビ畑などが増えてきて、植民地は急成長し、消費地としても重要になる。スペインがいた頃よりは大部分多角化されているといえる。

南北アメリカの多角化

- 宗主国の多角化
 - 英仏蘭植民地の拡大
 - カリブ海
 - 北米
 - ・ プリマス植民地 (清教徒)
 - ・ ヴァージニア植民地 (タバコ)
- 貿易の多角化
 - 密輸
 - イベリア半島以外との取引
 - 植民地間交易

昔のスペインの物流構造は一カ所に集められる感じであったのだが、植民地間交易やイギリスとカリブ海との交易なども盛んになる。

大西洋ネットワークの変容

- 以前：スペイン・ポルトガルの独占
 - 他国の排除
 - 漏斗型ネットワーク
- 以後：イギリス、フランス、オランダの参入
 - ネットワークの多重化
 - 新たな植民地の勃興
 - 北米
 - アルゼンチン、ベネズエラ

アルゼンチン、ベネズエラ

- 両地域とモスペイン・ネットワークの周縁
- アルゼンチン（ラプラタ副王領）
 - ポルトガル、オランダ、イギリスの密輸船が未航
 - ポトシの銀が目標
 - →首都ブエノスアイレスが急成長
 - 小麦、牛肉、皮革
- ベネズエラ
 - 高品質カカオの生産地
 - 貿易の拡大→奴隷プランテーションの拡大
 - 首都カラカスに富裕層が出現

重商主義の時代

ふたつの段階

① 17世紀半ばまで：重金主義(bullionism)

スペインの貴金屬独占への挑戦

② 17世紀以降：貿易差額主義(mercantilism)

貿易収支の黒字拡大：輸出増加・輸入抑制

輸出先としての植民地獲得

a.他国を排除：武力闘争

b.植民地に本国との貿易を強制

c.原料と加工の分離

植民地争奪戦

大西洋が英／仏／蘭の抗争の場に

→軍事費の増大

→財政収入の拡大が必要に

→植民地の統制強化

現実：ネットワークの複雑化

→貿易統制は困難

→植民地側の反発

植民地側からの大西洋ネットワーク変更